

2015年3月ドミニカ共和国内政, 外交, 経済定期報告

2015年5月14日
在ドミニカ共和国日本国大使館

1 内政

(1) エネルギー・鉱山省次官の殺害

6日夜, コトゥイ市の自宅でビクトリアノ・サントス・イラリオ・エネルギー・鉱山省次官(49歳)が射殺された。なお, 犠牲者のサントス次官は, コトゥイ市長選挙に立候補を表明していた。

(2) 違法移民正常化計画の動き

26日, 内務警察省は, 違法移民正常化計画は正常に進行し, 既に300人以上の移民ステータスが正常化されたと伝えた。なお, 本計画で目標とする承認人数は20万人であり, 申請数は17万5千に達している。

2 外交

(1) 在ハイチ・ドミニカ(共)総領事館の一時閉鎖

4日, ドミニカ(共)外務省は, ここ数日間で発生したハイチ人集団による度重なる総領事館襲撃事件を理由に, 在ハイチ・ドミニカ(共)総領事館(5公館全て)を一時閉鎖する決定を下した。13日, ナバロ外相は, ハイチ国境のヒマニ市にてブリュトゥス・ハイチ外相と会合を行った結果, ハイチ政府は在ハイチ総領事館周辺の警備を強化し, 一時閉鎖中の在ハイチ・ドミニカ(共)総領事館(5公館)を17日より再開させる旨合意した。

(2) メディーナ大統領の第45回SICA首脳会合出席

9日, メディーナ大統領はグアテマラを訪問し, 第45回SICA首脳会合に出席した。本会合において同大統領は, ドミニカ共和国が中米経済統合事務局(SIECA)に正式加盟することを検討している, SICAは他のラ米統合イニシアチブ同様, 加盟国の貿易障壁を撤廃してこそ成功があるとの考えを演説で述べた。なお, 同演説中に, 5月にグアテマラで開催予定の第2回日・中米ビジネス・フォーラムについての言及があった。

(3) ハイチ政府代表団の当国訪問

27日, ブリュトゥス外相を団長とするハイチ政府代表団が当国を訪問し, ナバロ外相を団長とするドミニカ(共)政府代表団との間で第5回ドミニカ(共)・ハイチ閣僚級会合を行った。本会合では, 両国の関心事項である治安, 移民, 農業, 貿易, 投資等のテーマについて協議された。また, 当国で発覚された地中海ミバエの撲滅に向けて協力する旨合意した。

(4) シャノン米国務長官顧問の当国訪問

30日、シャノン米国務長官顧問が当国を訪問し、メディーナ大統領、ナバロ外務大臣と個別に会合を行った。ナバロ外務大臣は、違法移民正常化計画は国際人権条約を厳格に遵守しつつこれを進めている、現在ドミニカ（共）は国家人権計画を策定すべく関係者と協議を行っている旨述べた。また、ナバロ外務大臣は、（地中海ミバエの発生により）米国が課した一部のドミニカ（共）産野菜・果物の一時輸入禁止措置がドミニカ（共）の農業セクターに与える負の影響について言及した。さらに、ナバロ外務大臣は、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）がDR-CAFTA加盟国に与え得る影響について関心を示し、次にオバマ米大統領と会合を行う際に、TPPについて、特にTPPがDR-CAFTA加盟国に与え得る懸念すべき影響について議論できると考える旨述べた。

3 経済

(1) 2014年の財政赤字

4日、財務省は2014年の財政赤字が736億2210万ペソ（約16.805億ドル）であったと明らかにした。

(2) 地中海ミバエの発生に伴う米国による一時輸入停止

18日、米国の動植物衛生局（APHIS）は、ドミニカ共和国東部で発生した地中海ミバエの脅威により、ドミニカ共和国からの様々な農産物や果物の輸入を一時停止した。米国に輸入されなくなった生産物は、アボカド、ブドウ、マンダリン、グレープフルーツ、レモン、サポーテ、オレンジ、トマト、マンゴー、パパイヤ、コショウ、マグロ、クレメンタイン、タンジェロとライチである。なお、19日、米国当局からこの害虫の管理や撲滅の技術を持った調査技術団が到着した。

(別添1) 経済指標

(了)